

② 野菜・花き

プロジェクト 「ながいも」で儲かる産地づくり

目標

- ・優良種苗の使用割合 過去5か年平均(H30～R4)：30% → R10：50%
- ・ながいも収量 過去5か年平均(H30～R4)：2.4t/10a → R10：3.2t/10a

挑戦する内容

- ・品質を維持する優良種苗増殖体系による所得向上
- ・新品種候補「青野ながいも1号」の高品質多収栽培技術の確立と普及
- ・労働力不足への対応
- ・地域の担い手の確保・育成
- ・機能性に着目した高付加価値化

関係者の声
=対話

- ・単収が高い品種、掘り取りしやすい短めの品種を育成してほしい（生産者）
- ・若手の研修は是非継続してほしい（生産者）
- ・生産者の手取りを増やすためには単収向上が必要（市場）
- ・「青野ながいも1号」を栽植密度や施肥など栽培方法で高品質多収を早期実現（農協）
- ・冬場の需要喚起が必要（農協）

役割分担

- ・全農、農協：優良種苗増殖、研修開催協力、販売PR、実証ほ等設置運営、現地指導
- ・生産者：現地実証への協力、検討会での提言
- ・産技センター：新品種の高品質多収栽培技術、省力技術の実証（野菜研究所）
機能性成分の調査（農産物加工研究所）
- ・県立保健大学：レジスタントスターチなどの機能性成分の効果検証
- ・県：研修開催、現地指導

変革後の姿

- ・コンパクトで品質の良い新品種「青野ながいも1号」の普及により、収穫時の労力の軽減や販売単収が向上し、所得が増加
- ・レジスタントスターチなど機能性を表示した販売PRによる冬場の需要の喚起

令和6年度計画

挑戦する内容

- 品質を維持する優良種苗増殖体系による所得向上
 - ・催芽切いものほか、成いもの小切片を利用した種苗増殖体系の実証（4か所）
 - ・原原種成いも供給体制の実証（野菜研）
 - ・指導者・生産者向け研修会の開催（指導者向け2回、生産者・指導者向け1回）
- 新品種の高品質多収栽培技術の確立
 - ・「青野ながいも1号」の特性に合わせた高品質多収栽培技術の確立
 - ・「青野ながいも1号」の試験展示ほの設置（5か所）
- 労働力不足への対応
 - ・作業の省力・機械化に関する事例調査（野菜研）
 - ・省力施肥体系の確立（野菜研）
- 地域の担い手の確保・育成
 - ・優良種苗生産技術研修会の開催（全農青森県本部行事と共催）（1回）
 - ・ながいもプロフェッショナル養成所研修の開催（3回）
- 機能性に着目した高付加価値化
 - ・ながいもの機能性成分探索（農加研）
 - ・機能性成分（レジスタントスターチなど）の効果検証（保健大）
 - ・機能性成分表示に係る文献調査（農加研）
 - ・機能性成分を活用したPR方法の検討（1回）



新品種候補
「青野ながいも1号」

対話

- ・部会、ながいも戦略推進協議会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、関係者からの意見を参考に事業構築（8月、1月）
- ・生産者向け研修会の際に、全農や農協も参加し、意見交換の場を設定（1月）